【英語】

～ClassPad.net の授業支援機能・各種ふせんを活用する～

英語コミュニケーションにおける「キャラクターの心情」と「表現の選択」を考える授業

架空のマンガ作品をもとに、感情を分析し、多様な英語表現のニュアンスの違いを理解する。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：架空のマンガのキャラクターの心情を英語で表現（英訳・創作）する過程を通して、助動詞を用いることで生じるニュアンスの違いを指導する。

生徒向けの目標：「希望」「依頼・要請」「許可」のニュアンスの違いを理解し、キャラクターに合わせた適切な英語のセリフを自ら考え、表現する力を身につける。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

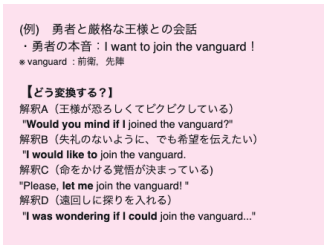
・**板書時間削減**：架空のマンガや例題が想定する状況をふせん上で示すため、生徒は効率的にそれをイメージすることができる。

・**協働学習促進**：授業支援機能を用いてグループで最適な英語表現を検討する過程で、多くのフレーズを実用できるようにする意義を見出させ、テキストの例文の定着を図る。

・**課題の配布→回収→管理→添削→返却の効率化**：授業支援機能を使えば、全ての手順が容易に。

		授業の流れ	ClassPad.net での操作
step1	【授業説明】 ○キャラクターの心情に合う，適切な表現のセリフを創ろう 【目標】 ・助動詞が持つグラデーションを理解しよう。 ・状況や相手との関係性(力関係や親密度)を読み取り多様な英語表現の中から選択・表現しよう。	**目的・概要の説明** 登場人物の心情に応じて、適切な英語表現が異なることを理解し、それを自在に活用できるようにすることを目的とする旨を伝える。例として、would が持つ「心の距離感（相手への配慮、ためらい）」について、以下の 3 つのニュアンスの違いを解説し、want to のような直接的な欲求ではなく、状況や相手の都合を考慮した控えめな主張であることを伝える。①希望　②依頼・要請　③許可	この 3 つのニュアンスの違いをまとめたテキストふせん（または画像ふせん）を、授業支援機能を用いて生徒全員に共有する。
step2	シチュエーション① ・登場人物 ダイキ：チームのキャプテン。 厳格な性格で，後輩からは恐れられている。 レン　：気弱なルーキー。ダイキには萎縮しがち。 ・状況 甲子園予選の決勝，9回裏満塁の大ピンチで相手の4番打者が登場。捕手であるダイキはピッチャーのレンに，彼の武器である「ストレート」のサインを出していた。しかし，レンは相手がストレートを狙っていることに気づいている。ここで，レンは密かに練習をしてきた，まだ未完成のカーブを投げたいと考えている。	**取り上げる作品の状況理解** 1. 教員より、3 つの架空のマンガのシチュエーション（①スポーツ推薦の先輩後輩、②接点のない図書委員と同級生、③日常コメディ）を提示する。※シチュエーション詳細はデジタルノートにて 2. 生徒は提示されたテキストを読み、キャラクター間の力関係や、その場面における心理的な制約（なぜ直接的に言いづらいのか）を読み取る。	3 作品のタイトル、状況設定、キャラクターの関係性をまとめたテキストふせんを提示・送信する。

step3



実践の準備

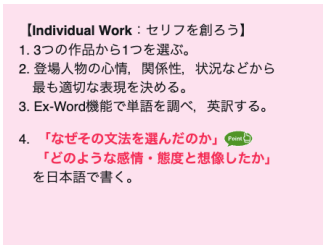
例題（勇者と王様など）を使い、「同じ状況でも、感情の解釈によって正解（選ぶ文法）が変わる」ことを見せる。

解釈 A（王様を恐れている場合）：
"Would you mind if I joined the vanguard?"（極めて控えめ）

解釈 B（勇者として覚悟が決まっている場合）："Your Majesty, let me join the vanguard. I will defeat the dragon."（強い意志）

一つの場面に対して、異なる表現を使った複数の訳例をテキストふせんで並べて提示し、「どの表現がどんな感情を表しているか」を視覚的に比較させる。

step4



個人作業(10 分間)

1. 生徒は step2 の 3 作品から 1 つを選択する。

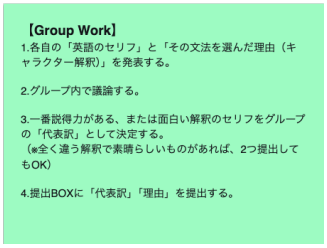
2. 辞書を用いて必要な語彙を検索する。

3. 自身の解釈に基づき、最も適切だと考える表現を用いて英語のセリフを作成する。

4. 「なぜその表現を選択したか」の理由（キャラクターの心情解釈）を日本語で記述する。

EX-word 機能のみを用いて語彙を検索させる。検索した単語のふせんと、英訳および理由を記入したテキストふせんを自身のワークスペース上に並べて配置させる。

step5



グループワーク(15~20 分間)

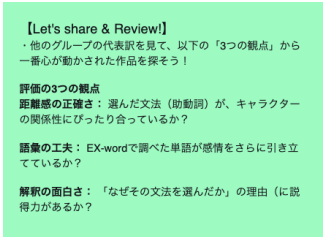
1. 5～6 人のグループを作り、各自が作成した英訳と「その文法を選んだ理由」を相互に提示・説明する。

2. グループ内で話し合い、各々の解釈の違いを比較する。文法選択の理由＝キャラクター解釈の違いを話し合う。

3. グループとして最も説得力がある（状況に合致している）と判断した代表訳を 1 つ（または解釈別で複数）決定し、提出用フォーマットに入力する。

授業支援機能を用いて個人作成のふせんをグループ内で送受信させる。その後、教員のデジタルノートに同時編集機能で参加させ、用意されたテキストふせん（テンプレート）に代表訳を書き込ませる。

step6



投票・講評

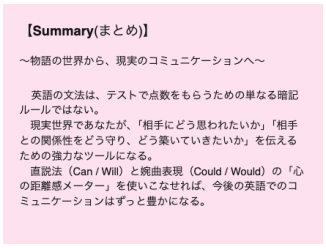
1. 教員は各グループが作成した代表訳を全体に提示する。

2. 生徒はすべての訳を比較し、最も状況設定と文法選択がマッチしていると思うものに挙手で投票する（自班以外）。

3. 教員は、最多得票のグループを発表し、表現選択の妥当性や語彙の工夫について講評を行う。

教員のデジタルノートに書き込まれた各グループのテキストふせんを一覧表示（またはスライドショー）にしてプロジェクター等で提示する。

step7


【Summary(まとめ)】

～物語の世界から、現実のコミュニケーションへ～

英語の文法は、テストで点数をもらうための単なる暗記ルールではない。
現実世界であなたが、「相手にどう思われたいか」「相手との関係性をどう守り、どう築いていきたいか」を伝えるための強力なツールになる。
直説法（Can / Will）と婉曲表現（Could / Would）の「心の距離感メーター」を使いこなせれば、今後の英語でのコミュニケーションはずっと豊かになる。

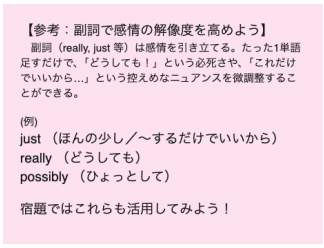
まとめ・宿題の提示

1. 教員は授業のまとめとして、文法が感情や関係性を伝えるツールであることを再確認する。

2. 宿題として、「日常の特定の場面（例：アルバイト先の厳しい店長にシフト変更を頼む）」を提示し、適切な英語表現の選択とその根拠を記述させることを指示する。

宿題の課題内容を記したテキストふせんを配布する。生徒は次回授業までに自身のワークスペースのテキストふせんに回答を記入し提出する。

step8


【参考：副詞で感情の解像度を高めよう】

副詞（really, just 等）は感情を引き立てる。たった1単語足すだけで、「どうしても！」という必死さや、「これだけでいいから…」という控えめなニュアンスを微調整することができる。

(例)
just （ほんの少し／～するだけでいいから）
really （どうしても）
possibly （ひょっとして）

宿題ではこれらも活用してみよう！

参考・発展

本時の学習内容をさらに深めるため、表現のニュアンスを微調整する副詞（really, just 等）の使用例をまとめた資料を配布し、各自で確認させる。

補足説明用のファイルふせんまたはテキストふせんを作成し、授業終了時までに生徒に配信する。